

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰー野外教育 (141A2-3230)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	坂口 俊哉					補助担当者名					
単位数	2 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		－			
授業の概要	アウトドアスポーツを中心に、レジャー、レクリエーション、野外教育などの場で実施されている様々なアクティビティーについて概観する。また、一部のアクティビティーについては、実際に体験する機会を設ける。講義では、これらのアクティビティーを成り立たせている様々な資源(人、物、金、情報)に目を向けることで、アウトドアスポーツの普及や発展に必要な要素について検討する。具体的作業として、グループ・ディスカッションに基づいた発表をしてもらう。 サービス消費者としての視点とサービス提供サイドの視点の両方から日本のアウトドアスポーツを俯瞰することで、「アウトドアスポーツ」「野外活動」「レクリエーション」「レジャー」「野外教育」それぞれのイメージを明確にすることが求められる。 この科目の受講生は、次の年度以降で「生涯スポーツ論・演習Ⅱー野外活動」、「生涯スポーツ指導実習ー野外教育施設」を選択することを前提としている。 この科目を履修することで、実習先の選択のために必要な基礎知識を身につけることが最終目標である。										
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 (専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知的領域	「アウトドアスポーツ」「野外活動」「レクリエーション」「レジャー」「野外教育」とは何か?その概念や目的、内容などについて自分自身の言葉で説明できるようになることを目標とする。		○	○				50
			■情意的領域	他者の考えを理解しようとする姿勢と、自己の考えを他者に伝える積極的な姿勢を身につけることを目標とする。	○			○			30
■技能的領域	インターネットなどのメディアを利用した情報収集とその結果の提示の仕方を身につけること。テントの設営、タープの設営、ロープワークなどの技能を身につけること。			○	○			20			
成績評価の基準	アウトドアスポーツ産業に関連するレポートを複数回提出してもらう。 グループディスカッションに基づいた										
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配付する。教科書指定はない。参考図書として次の書籍を推薦する。「レジャー白書」公益財団法人日本生産性本部、「野外教育入門ーやさしくわかる自然体験活動」星野敏男他編著、小学館、「野外教育の理論と実際ー組織キャンプ入門」東京YMCA野外教育研究所編、学分社。										
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ指導実習で野外教育施設での実習を希望する学生はこの科目を履修する必要がある。 生涯スポーツレクリエーション&ゲームズ、アウトドアスポーツ実習(夏季)などを履修することが望ましい。 野外活動Ⅰ・Ⅱのいずれかについては、必ず履修すること。			備考(教員メッセージ含む)		授業中にディスカッションする機会を設ける。積極的な取り組みを期待している。					
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp)。大学院生棟3F 教室室1										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	坂口 俊哉	オリエンテーション(学外実習について、授業の進め方について)				課題1: マインドマップの作成方法について学ぶこと(60分)					
2	〃	野外教育・野外活動・組織キャンプ(関連用語と概念の整理)				課題2: NEALの資格認定制度のについて調べ、制度の狙いやカリキュラムについて学習すること。また類似した資格にどのようなものがあるのか調べること。(60分)					
3	〃	組織キャンプの実際(目的、対象、アクティビティー、運営組織など)				課題3: 配布資料を読んで、野外教育の歴史について学ぶこと(60分)					
4	〃	野外活動のプログラム(アクティビティーの様々な課題、学校教育との関係)				課題4: マインドマップの作成(60分)					
5	〃	野外教育の歴史と社会的背景(定義、意義、目的)				課題5: 配布資料を読んで、野外教育の目的について理解を深めること。(60分)					
6	〃	体験1(アイズブレイク、ロープワーク)				課題6: アイズブレイクとは何か、どのようなことをするのか、情報を収集しておくこと。(60分)					
7	〃	野外活動の指導者(資格、統括団体)				課題7: ロープワークプログラム作成のための情報を収集しておくこと(60分)					
8	〃	野外活動の動向(種目の多様化、参加人口など)				課題8: レジャー白書から、スキー、キャンプの2種目について実施率の推移を調べておくこと。(60分)					
9	〃	野外活動・野外教育のリスクマネジメントと法的責任				課題9: 登山中に発生するリスクについて情報を収集すること。特に、山岳遭難の動向を対象とする。(60分)					
10	〃	環境教育と野外活動・教育				課題10: アウトドアスポーツと関連する環境問題に関する新聞記事を読み、そのコピーと内容を要約したレポートを準備すること。(60分)					

11	〃	体験2（スラックライン）	課題11：スラックライン指導マニュアル作成（60分）
12	〃	野外活動の用具(地図、コンパス、バーナー、ランタンなどの取り扱い方)	課題12：火器を使用する場合のマニュアル作成（60分）
13	〃	野外教育の施設（自然の家など）の現状と課題	課題13：視察した施設の概要と利用者（引率者）の立場からチェックした問題点をまとめておくこと（60分）
14	〃	体験3（PA プログラム）	課題14：PAプログラムの指導マニュアルを作成すること（90分）
15	〃	野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの発表と比較・検討	課題15：野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの提出、発表準備（60分）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱ－野外教育 (141B2-3230)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	坂口 俊哉					補助担当者名						
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		－				
授業の概要	野外教育や野外活動指導者として必要な知識を身につけることを目標としている。具体的には、野外教育の意義や価値、野外教育が必要とされる社会的な背景や野外教育の歴史について学ぶ。また、野外教育を取り巻く課題について検討する。 生涯スポーツ指導実習で、「野外教育施設」での実習を希望する学生にとっては必修の講義科目である。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 (専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	野外教育とは何か？野外活動とは何か？その目的などについて自分自身の言葉で説明できるようにすることを目標とする。			○						50
		■情意的領域	他者の考えを理解しようとする姿勢と、自己の考えを他者に伝える積極的な姿勢を身につけることを目標とする。	○						○		30
■技能的領域	インターネットなどのメディアを利用した情報収集とその結果の提示の仕方をも身につけること アウトドア用品の扱い方（テント、シュラフ、火器類など）を身につける			○	○			20				
成績評価の基準	野外教育とは何か、自然体験活動などの周辺概念を含めた理解度を評価する。評価では授業での取り組みとともに、「野外教育」をセントラルイメージとしたマインドマップの作成とそのプレゼンテーションの内容を加味する。											
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配付する。教科書指定はない。参考図書として次の書籍を推薦する。「野外教育入門－やさしくわかる自然体験活動」星野敏男他編著、小学館、「野外教育の理論と実際－組織キャンプ入門」東京YMCA野外教育研究所編、学分社。											
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ指導実習で野外教育施設での実習を希望する学生はこの科目を履修する必要がある。 生涯スポーツレクリエーション&ゲームズ、夏季山岳レジャー・スポーツ実習などを履修していることが望ましい。 野外活動Ⅰ・Ⅱのいずれかについては、必ず履修しておくこと。			備考(教員メッセージ含む)		授業中にディスカッションする機会を設ける。積極的な取り組みを期待している。						
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp)。大学院生棟3F 教室室1											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
1	坂口 俊哉	オリエンテーション（学外実習について、授業の進め方について）				課題1：マインドマップの作成方法について学ぶこと（60分）						
2	〃	野外教育・野外活動・組織キャンプ（関連用語と概念の整理）				課題2：NEALの資格認定制度のについて調べ、制度の狙いやカリキュラムについて学習すること。また類似した資格にどのようなものがあるのか調べること。（60分）						
3	〃	組織キャンプの実際（目的、対象、アクティビティー、運営組織など）				課題3：配布資料を読んで、野外教育の歴史について学ぶこと（60分）						
4	〃	野外活動のプログラム(アクティビティーの様々と課題、学校教育との関係)				課題4：マインドマップの作成（60分）						
5	〃	野外教育の歴史と社会的背景（定義、意義、目的）				課題5：配布資料を読んで、野外教育の目的について理解を深めること。（60分）						
6	〃	体験1（アイスブレイク、ロープワーク）				課題6：アイスブレイクとは何か、どのようなことをするのか、情報を収集しておくこと。（60分）						
7	〃	野外活動の指導者（資格、統括団体）				課題7：ロープワークプログラム作成のための情報を収集しておくこと（60分）						
8	〃	野外活動の動向（種目の多様化、参加人口など）				課題8：レジャー白書から、スキー、キャンプの2種目について実施率の推移を調べておくこと。（60分）						
9	〃	野外活動・野外教育のリスクマネジメントと法的責任				課題9：登山中に発生するリスクについて情報を収集すること。特に、山岳遭難の動向を対象とする。（60分）						
10	〃	環境教育と野外活動・教育				課題10：アウトドアスポーツと関連する環境問題に関する新聞記事を読み、そのコピーと内容を要約したレポートを準備すること。（60分）						
11	〃	体験2（スラックライン）				課題11：スラックライン指導マニュアル作成（60分）						
12	〃	野外活動の用具(地図、コンパス、バーナー、ランタンなどの取り扱い方)				課題12：火器を使用する場合のマニュアル作成（60分）						
13	〃	野外教育の施設（自然の家など）の現状と課題				課題13：視察した施設の概要と利用者（引率者）の立場からチェックした問題点をまとめておくこと（60分）						
14	〃	体験3（PA プログラム）				課題14：PAプログラムの指導マニュアルを作成すること（90分）						
15	〃	野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの発表と比較・検討				課題15：野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの提出、発表準備（60分）。						

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲー野外教育 (141B2-3231)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)	
担当教員名	坂口 俊哉					補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	3		受け入れ人数		－	
授業の概要	野外教育施設での実習内容を振り返り、野外教育の理論と実践について理解を深めることを目標としています。具体的には、各施設で実施された野外活動プログラムの内容・目的・対象とプログラムの企画運営について発表を行ってもらいます。また、これらの情報をもとに、新たな野外活動プログラムの企画・立案を行い発表してもらいます。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 (指導者基礎力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	・野外教育の目的と効果について整理する。 ・効果的な野外教育のための企画・運営のポイントについて理解する。	○		○	○			40	
■情意的領域	・自身の意見を積極的に発信する力を身につける。 ・他者の意見を傾聴する姿勢を身につける。	○			○			20	
■技能的領域	・パワーポイントを使用した効果的なプレゼンテーション能力を身につける。 ・野外活動のプランニング能力を身につける。	○		○	○			40	
成績評価の基準	1.スポーツ指導実習の内容についての報告 2.野外活動の企画発表内容 3.授業への取り組み を総合的に判断して評価する。								
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配付する。								
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ論・演Ⅲ-野外教育論・演習を履修していること。また、野外教育分野の生涯スポーツ指導実習を終了していること、 野外教育関連活動のボランティア経験、指導経験があることを条件として考慮する場合もある。			備考(教員メッセージ含む)		特になし。			
オフィス・アワー	授業に関する質問・相談については随時受け付けています。事前にメールで連絡してもらえると確実です。以下のアドレスに連絡してください。 tsakaguc@nifs-k.ac.jp								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	坂口 俊哉	ガイダンス(授業内容、授業の進め方、成績の評価)				課題1:実習日誌をもとに、実習中の行動を一覧表にして提出すること。(60分)			
2	〃	野外教育プログラムの実際と評価ポイント:夏季山岳レジャー・スポーツ実習を例として				課題2:「大人のキャンピング飯島」の報告書を読んで、キャンプ企画運営の問題点について整理してレポートすること。(90分)			
3	〃	野外教育プログラムの実際と評価ポイント:飯島アイランドキャンパス事業を例として				課題3:授業で学んだ評価のポイントに沿って、報告書に記載された内容を再評価すること。(60分)			
4	〃	野外教育プログラムの支援の実際:企画、運営作業の整理、プレゼンテーション準備(報告のポイント)				課題4:実習内容の報告準備。何を伝えるか、骨子を明確にすること。(60分)			
5	〃	プレゼンテーション準備:グループ分け、役割分担、発表順の決定				課題5:プレゼンテーションの作成(60分)			
6	〃	プレゼンテーション1:実習内容の発表と実習内容の検討				課題6:授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること。(60分)			
7	〃	プレゼンテーション2:実習内容の発表と実習内容の検討				課題7:授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること。(60分)			
8	〃	プレゼンテーション3:実習内容の発表と実習内容の検討				課題8:授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること。(60分)			
9	〃	野外教育プログラムの企画:コンセプト作り、目的の設定、プログラム内容の検討				課題9:授業中に話し合った内容についてまとめ、レポートを作成すること。(60分)			
10	〃	野外教育プログラムの企画:日程の確定、スタッフ配置、スタッフ行動表の作成、備品リストの作成				課題10:野外教育プログラムの企画書(募集要項)の作成。(60分)			
11	〃	野外教育プログラムの企画:施設利用申請の実際、参加者名簿、利用施設と活動内容、雨天プログラム、リスクマネジメントの計画				課題11:スポーツを実施する上での様々なリスクに対応した保険の情報を収集しておくこと。怪我をした場合、死亡した場合(被害を受けた場合)だけでなく加害者になった場合についても調べておくこと。(60分)			

12	〃	野外教育プログラムの企画：リスクマネジメントの具体策	課題12：バックカントリーでのスキー・スノーボードにおける自治体やスキー場の対応例について、以下の視点から情報を収集すること。1．活動場所の制限方法、2．制限のための人員確保、3．様々な費用の確保方法。（60分）
13	〃	野外活動に対する助成金:助成団体,申請手続き	課題13：野外活動の普及・発展などを目的とした助成金について、助成の対象、助成金学、申請方法、成果の報告方法などについて情報を収取しておくこと。（60分）
14	〃	野外活動と地方自治体の取り組み:被災地の復興,過疎地の活性化,観光地の集客例	課題14:企画案の提出とプレゼンテーションの準備。（120分）
15	〃	プレゼンテーション4:野外教育プログラムの企画発表と討論	